

## 平成 28 年度版（旧版）教科書使用 歴史的分野 学習指導計画作成資料（3 観点版）

・令和元年度入学生 第3学年用  
(P.19 第5編第2章～)  
・令和2年度入学生 第2・3学年用  
(P.1 第4編～)

### ■はじめに

- この資料は、令和3年度からの新学習指導要領の完全実施に伴った新しい評価の観点に基づき、日本文教出版の平成28年度版『中学社会歴史的分野』教科書を使用した学習指導計画を作成するための参考資料としてまとめたものです。
- 評価の観点については、令和2年3月に示された国立教育政策研究所・教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（中学校 社会）」に従い、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を設定しています。
- 上記「参考資料」の巻末資料に掲載された「内容のまとめりごとの評価規準（例）」をもとに、教科書の編・章・節に対応した評価規準を目標とともに示しました。
- この資料における「評価規準」とは、「おおむね満足できる」学習状況を表しています。その評価規準を参考にし、生徒一人ひとりの学習の確実な定着が図られているかを評価し、「努力を要する」学習状況か「十分満足できる」学習状況かを判断していただくこととなります。
- 評価計画作成の留意事項として、単元という学習のまとめりで学習評価を計画し、各観点の特質をふまえて評価場面を設定することや、評定のための資料として用いる評価（「評定に用いる評価」）と、評定のための資料としては用いないものの、生徒を認め励まし、日常の学習改善につなげる評価（「学習改善につなげる評価」）を適切に位置付けることがあげられます。1 単位時間ごとの「評価規準」（学習改善につなげる評価）を取りまとめて、編・章・節の「評価規準」を「★評定に用いる評価」として示しました。各学校で編成される学習指導計画に基づいて評価計画の作成をお願いいたします。

### ■年間指導計画

#### 第4編 近世の日本

##### 第4編の目標

- 近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 近世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。  
【単元を貫く問い】  
「近世」は、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何だろうか。また、どのような特色をもった時代だろうか。

(★) 第4編の評価規準に用いる評価	<b>知識・技能</b>	・近世の日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。
	<b>思考・判断・表現</b>	・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・近世の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，近世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

## 第1節 中世から近世へ

第1節の目標		
<p>○ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，近世社会の基礎がつけられたことを理解する。</p> <p>○交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近世社会の基礎がつけられたことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 ヨーロッパ人の来航や信長・秀吉の統一事業は，社会をどのように変えたのだろうか。</p>		
(★) 第1節の評価規準に用いる評価	<b>知識・技能</b>	・ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，近世社会の基礎がつけられたことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b>	・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近世社会の基礎がつけられたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
38	96～99	<b>【導入】</b> ・「近世の日本」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動きー一つにつながれた世界	○中世と近世の幕府の建物の比較を通して，当時の日本のようすをイメージし，近世の日本について主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して，15世紀	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 近世の日本と世界について，見通しをもって学習に取り組もうとし，課題を主体的に追究しようとしている。 <b>知識・技能</b> 地図や年表から15世紀頃の世界の広がりや交易ルート，15世紀～18世紀の日本と世界の動きを理解してい

			の世界の広がりや交易ルート，15～18世紀の日本と世界の動きについて理解する。	る。
--	--	--	---	----

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
39	100 101	1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 ・イスラム教の世界の発展 ・アジアに向かうキリスト教徒	○イスラム教世界が繁栄した理由を，文化や交易の視点からとらえて考え，表現する。 ○イスラム教世界の発展を背景としたキリスト教世界の変化を理解する。	<b>思考・判断・表現</b> イスラム教世界が繁栄した背景をイスラム教の文化やムスリム商人の活躍に着目して考え，表現している。 <b>知識・技能</b> イスラム教世界の発展と拡大の影響を受けたキリスト教世界でルネサンスや宗教改革の動きが起こり，やがてアジアやアメリカへの進出につながったことを理解している。
40	102 103	2 つながれてゆく世界 ・ポルトガル人などのアジア進出 ・一体化する世界	○なぜ世界が一体化したのかを，ヨーロッパ人が新航路を開いた地域や目的に着目して考え，表現する。 ○新航路の発見により，他地域との交易や植民地化が進められ，世界が一体化していったことを理解する。	<b>思考・判断・表現</b> ヨーロッパ諸国が新航路を開いた地域や目的に着目し，15世紀末以降の世界が一体化していった理由を考え，表現している。 <b>知識・技能</b> 新航路の発見が，ヨーロッパと他地域との交易を盛んにすると同時に，ヨーロッパ諸国を中心に世界の一体化が始まったことを理解している。
41	104 105	3 ヨーロッパ人の来航と信長 ・鉄砲とキリスト教の伝来 ・織田信長の統一事業	○この時代にヨーロッパ人が伝えた鉄砲・キリスト教が，日本の社会に与えた影響を考え，表現する。 ○織田信長の統一事業の影響を，その経済政策，宗教政策などと関連づけて理解する。	<b>思考・判断・表現</b> 鉄砲とキリスト教の伝来に着目し，ヨーロッパ人が戦国時代の社会に与えた影響を考え，表現している。 <b>知識・技能</b> 織田信長の政策を整理し，そのねらいと中世に大きな力をもった勢力が力を失ったことを理解している。
42	108 109	4 全国統一と近世社会の基礎づくり ・豊臣秀吉の全国統一 ・太閤検地 ・刀狩	○豊臣秀吉が信長の統一事業を引き継いで全国統一を成し遂げた過程を理解する。 ○太閤検地や刀狩などの政策から，兵農分離を進め，近世社会	<b>知識・技能</b> 信長の統一事業を引き継いだ豊臣秀吉が，朝廷の権威も利用しながら全国統一を成し遂げていったことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 秀吉が太閤検地や刀狩を実施した

			の基礎がつくられたことについて考え、表現する。	目的に着目し、兵農分離を進め、全国を一律に支配する政策により近世社会の基礎がつくられたことを考え、表現している。
43	110 111	5 秀吉の海外政策 ・東アジアにおける貿易 ・秀吉の朝鮮への侵略	○秀吉の海外政策について国内の政治や経済をふまえて理解する。 ○朝鮮への侵略が日本や朝鮮に与えた影響について多面的・多角的に考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 東アジアとの貿易を重視する一方で、朝鮮を侵略しようとした豊臣秀吉の意図を国内の政治や経済をふまえて理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 秀吉の朝鮮侵略について、日本・朝鮮の両国にどのような影響をあたえたのかに着目し、双方の視点から考え、表現している。
44	112 113	6 安土桃山時代の文化 ・桃山文化	○信長や秀吉の統一事業を背景に、文化の担い手が中世とは異なることを知り、桃山文化の特徴を理解する。 ○安土桃山時代の文化が生み出された背景について、室町文化の特徴とのちがいに着目して考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 文化を建築、絵画、工芸、芸能などの分野別に整理してとらえ、大名や豪商などの町衆たちに支えられた文化であることを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 大名や豪商の気風や経済力を背景として豪華・雄大な桃山文化が生み出されたことを、室町文化とのちがいに着目して考え、表現している。
—	114 115	【でかけよう！地域調べ】 城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる 一兵庫 県姫路市—	○城下町について、新旧の地図を比較し、現代に伝わる町名に着目するなど、身近な地域の歴史を調べる技能を身につける。 ○新旧の地図の読み取りを通して、身近な地域の歴史的な特徴について主体的に追究する態度を養う。	<b>知識・技能</b> 新旧の姫路城周辺の地図を比較し、近世の城下町の名残を読み取るなど、調べる技能を身につけている。 <b>主体的に学習に取り組む態度</b> 新旧の地図の読み取りをきっかけにして、身近な地域の城下町について関心を持ち、身近な地域の歴史的な特徴を主体的に追究しようとしている。

## 第2節 江戸幕府の成立と東アジア

### 第2節の目標

○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。

○統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。

【単元を貫く問い】

なぜ江戸幕府の支配体制は安定していたのだろうか。

(★) 第2節の評価規準 に用いる評価	知識・技能	・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。
	思考・判断・表現	・統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
45	116 117	1 全国支配のしくみ ・徳川 260 年の基礎 ・将軍の大名支配	○諸資料を基に、徳川家康による全国支配確立の過程と、江戸幕府による大名支配のあり方を理解する。 ○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたって徳川氏の支配が続いた理由を考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府が開かれた過程と、幕府による大名支配に関する政策の内容やその目的を、諸資料から理解している。 思考・判断・表現 幕府の財政や大名統制に着目して、安定した全国支配を確立できた理由を考え、表現している。
46	118 119	2 朱印船貿易から鎖国へ ・朱印船貿易 ・島原・天草の一揆 ・鎖国	○江戸時代の初期、幕府が朱印船貿易やヨーロッパ人の来航を推進したことを理解する。 ○江戸幕府が鎖国へと対外政策を転換した理由を、貿易・宗教・情報に着目しながら考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府は、当初貿易による利益を重視し、朱印船貿易やヨーロッパ人の来航を推進したことを理解している。 思考・判断・表現 江戸幕府が鎖国を行った理由を、キリスト教の布教による影響と、貿易の利益と海外情報の独占に着目して考え、表現している。
47	120 121	3 隣接地域との関係 ・朝鮮との国交回復 ・琉球王国 ・蝦夷地とアイヌ	○鎖国下の日本において、朝鮮・琉球・蝦夷地とも交流があったこと、蝦夷地ではアイヌ文化が成熟していたことを理解する。 ○江戸幕府はどのようにして隣接地域と関係を保持していたかについて、幕府、藩、隣接地域の関係に着目して考え、表現する。	知識・技能 鎖国政策のもとでも当時の日本は、朝鮮・琉球・蝦夷地と交流があったことや蝦夷地でアイヌ文化が成熟していたことを理解している。 思考・判断・表現 江戸幕府が対馬・薩摩・松前の各藩を通して朝鮮・琉球・蝦夷地と関係をもっていた状況について考え、表現している。

48	122 123	4 江戸時代の百姓と町人 ・百姓と村 ・町人と町 ・江戸時代の身分制	○江戸時代の身分制について、それぞれの役割とともに理解する。 ○江戸幕府が民衆支配を強化するにあたり、身分制を利用したことに着目して、江戸時代の社会の特色を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 武士や百姓、町人、「えた」「ひにん」身分の人々がそれぞれの身分の中で職分を果たしたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 幕藩体制の維持と強化のため、身分制が利用されたことに着目し、江戸時代の社会の特色を考え、表現している。
49	126 127	【とらえよう！時代の転換】 江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への転換を考えてみよう	○江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを、諸資料から読み取る。 ○江戸幕府が行った政策によって、武家政権による全国支配が確立されたことを、中世と比較して考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを、諸資料から読み取っている。 <b>思考・判断・表現</b> 江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを整理し、中世社会で力をもっていた勢力をおさえて幕府が強力な全国支配を行ったことについて考え、表現している。

### 第3節 産業の発達と元禄文化

第3節の目標	
<p>○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</p> <p>○新田開発や新しい技術が開発されたことの影響や文化の時期、場所、担い手などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 なぜ都市を中心とした町人文化が形成されたのだろうか。</p>	
<p>★ 第3節の 評価規 準 ( 評価 に 用 い る 評 価 )</p>	<p><b>知識・技能</b> ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b> ・新田開発や新しい技術が開発されたことの影響や文化の時期、場所、担い手などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
50	128 ～ 131	1 産業の発達と都市 ・農業の発達 ・漁業と鉱業の発達 ・にぎわう三都と交通網の	○江戸時代において、諸産業が発達するとともに交通網が整備され、都市が発展し	<b>知識・技能</b> 江戸時代に諸産業が発達するとともに交通網が整備され、江戸・大阪・京都が発展したことを理解して

		発達	たことを理解する。 ○江戸時代の産業や交通の発達にもなる社会の変化について、新たな技術の開発などに着目して考え、表現する。	いる。 <b>思考・判断・表現</b> 新たな技術の開発などが社会にあたえた影響に着目して、江戸時代の産業や交通網の発達にもなる社会の変化を考え、表現している。
51	132 133	2 江戸時代前期の文化と学問 ・元禄文化 ・学問と教育	○江戸時代前期の元禄文化や学問の特色を理解する。 ○元禄文化が発達した要因、また、学問の広まりがみられた背景について、当時の社会のようすに着目して考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 上方を中心に町人が担い手となり元禄文化が発展したことや、武士や庶民にも学問が広がったことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 元禄文化が発達したことや学問の広まりがみられた背景について社会の安定や発達などから考え、表現している。

#### 第4節 幕府政治の改革と農村の変化

第4節の目標	
<p>○社会の変動や幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。</p> <p>○幕府の財政難の原因や社会の変化、民衆の動きなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近世の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p><b>【単元を貫く問い】</b> なぜ江戸幕府の政治は行き詰まっていったのだろうか。</p>	
(★評価に用いる評価)	<p><b>知識・技能</b> ・社会の変動や幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</p>
	<p><b>思考・判断・表現</b> ・幕府の財政難の原因や社会の変化、民衆の動きなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・近世の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b> ・近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</p>

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
52	134 135	1 幕府政治の改革 ・綱吉・吉宗の政治 ・田沼と定信の政治	○江戸幕府による政治改革について整理し、それぞれの改革の内容を理解する。 ○幕府の財政難の原因	<b>知識・技能</b> 江戸幕府による諸改革の内容(ねらいや手段)や結果について、諸資料を基に整理してまとめ、理解している。

			と改革で行われた政策との対応に着目して、政治が行き詰まったことを考え、表現する。	<b>思考・判断・表現</b> 幕府の財政難の原因と改革で行われた政策が対応していないことをふまえ、政治改革が十分な成果を上げられず、政治が行き詰まったことを考え、表現している。
53	136 137	2 農村の変化と民衆の動き ・変わる農村 ・百姓一揆と打ちこわし	○商品作物の栽培の広がりや、貨幣経済の浸透による社会の変化について理解する。 ○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について、農村の変化や当時の社会状況と関連づけて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 商品作物の栽培の広がりや貨幣経済の浸透により、農村で階層分化が進んだことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 貨幣経済の浸透や農村での階層分化を背景に、天候不順なども相まって、百姓一揆や打ちこわしの件数が増大したことについて考え、表現している。
54	138 139	3 江戸時代後期の学問と文化 ・国学と蘭学 ・化政文化	○18世紀に入り発達した新しい学問と、江戸を中心に栄えた化政文化のそれぞれの特色について理解する。 ○新しい学問が発達した背景と、化政文化が栄えた要因について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 国学や蘭学が発達し、新しい時代を切り開く動きにつながったことや江戸を中心に民衆文化（化政文化）が栄えたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 社会の変化や幕府の政策の変容などに着目し、新しい学問が発達したり、化政文化が栄えたりした背景について考え、表現している。
—	140 141	【先人に学ぶ】 幕府のはげ山対策と都市に住む人々のリサイクル	○江戸幕府が行った植林事業や民衆のくらしの中にあるリサイクルのしくみなど、当時の環境対策や循環型社会のようすを理解する。 ○江戸時代における「ものを大切にする」という考え方をふまえ、現代に適応できることはないか考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 江戸幕府がはげ山対策を実施していたことや、現代にも通じるリサイクルのしくみがみられたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 江戸時代における「ものを大切に」するという考え方をふまえ、現代社会に応用できることについて考え、表現している。
—	142 143	【歴史を掘り下げる】 文化財を守り伝える仕事 —九州国立博物館の取り組み—	○文化財の保存・修復の取り組みを学び、保存修理の方法や特色について理解する。	<b>知識・技能</b> 文化財の保存・修復を手がける九州国立博物館の取り組みを学び、保存修理の方法や文化財を保存修理することの意義について理解している。
55	144 145	【学習の活用—とらえよう！「近世の日本」の特色】	○幕府の収入の推移に着目して、近世の特色を多面的・多角的	<b>思考・判断・表現</b> 幕府の収入の推移に着目し、諸改革の内容を整理する活動を通して、



	「幕府の収入」に着目して、時代の特色にせまろう	に考え、表現する。 ○「幕府の収入」に着目し、諸改革の内容を整理する活動を通して、これまでの学習をふり返りながら、近世の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	近世の特色を考え、表現している。 <b>主体的に学習に取り組む態度</b> これまでの学習活動をふまえ、近世の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。
--	-------------------------	---	---

## 第5編 近代の日本と世界

### 第1章 日本の近代化

第5編第1章の目標	
	<p>○近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○近代（前半）の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近代（前半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 「近代（前半）」は、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何だろうか。また、どのような特色をもった時代だろうか。</p>
第5編第1章の評価規準 (★評定に用いる評価)	<p><b>知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。</li> </ul> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代（前半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>近代（前半）の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

### 第1節 欧米の発展とアジアの植民地化

第1節の目標
<p>○欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。</p> <p>○欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しを</p>

もって学習に取り組む態度を養う。

【単元を貫く問い】

なぜアジアに欧米諸国の植民地が広がったのだろうか。

(★) 第1節の評価規準 に用いる評価	<b>知識・技能</b>
	・欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b>
	・欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し，表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
56	146 ～ 149	【導入】 ・「日本の近代化」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き－19世紀後半の日本と世界	○社会の変化を示す資料の比較を通して，当時の日本のようすをイメージし，開国とその影響について主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して，江戸時代から明治時代にかけての世界の国々の対立や日本と世界の動きについて理解する。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 近代（前半）の日本と世界について，見通しをもって学習に取り組もうとし，課題を主体的に追究しようとしている。 <b>知識・技能</b> 地図や年表から当時の世界情勢についてまとめ，これまでの時代とのちがいや欧米諸国の接近と開国に至るまでの日本と世界の動きを理解している。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
57	150 151	1 議会政治の成立と産業革命 ・イギリスの議会政治 ・イギリスの産業革命	○イギリスで王政の代わりに議会制が確立した過程について理解する。 ○産業革命の前と後では経済や社会がどのように変化したかについて，その影響を考え，表現する。	<b>知識・技能</b> イギリスで議会制が確立した過程について，王政に対する民衆の動きをふまえて，理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 産業革命による経済的，社会的影響などの変化について考え，表現している。
58	152 153	2 アメリカの独立とフランス革命 ・アメリカの独立 ・フランス革命	○諸資料の読み取りを通して，アメリカ独立戦争やフランス革命に至るまでの過程や啓蒙思想の影響に	<b>知識・技能</b> 市民革命では，政治的な対立と社会の混乱，そこで生じた犠牲や，啓蒙思想による議会政治の発展などを経て近代民主政治への動きがみられ

			<p>ついて理解する。</p> <p>○市民革命によって、議会制民主主義と近代市民社会が成立していったことについて考え、表現する。</p>	<p>たことを理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>市民革命の影響について、自由や平等を求めたアメリカ独立とフランス革命の共通点に着目して考え、表現している。</p>
59	154 155	<p>3 産業革命の影響とアメリカ合衆国の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命の影響</li> <li>・南北戦争とアメリカ合衆国の発展</li> </ul>	<p>○産業革命が進展する一方で、都市部の生活環境が悪化し、資本家と労働者の貧富の差が拡大したことについて考え、表現する。</p> <p>○産業が発展して国際競争力をつけたアメリカは、南北戦争や西部開拓を経て、さらに大きく発展したことを理解する。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>イギリスで始まった産業革命の成功による影響を、欧米諸国のアジア・アフリカ進出と関連づけてとらえ、表現している。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>産業が発展して国際競争力をつけたアメリカは、南北戦争により奴隷制が廃止され、西部開拓を経て、さらに発展したことを理解している。</p>
60	156 157	<p>4 ヨーロッパ諸国の侵略と抵抗するアジア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ムガル帝国とイギリスの支配</li> <li>・清とアヘン戦争</li> </ul>	<p>○イギリスのアジア侵略から、原料供給地と新たな市場を求めてアジアに植民地拡大をめざすヨーロッパ諸国の動きについて考え、表現する。</p> <p>○イギリスのアジア侵略によって、貿易形態・社会のようすが変化し、植民地支配に抵抗する人々が現れたことを理解する。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>イギリスのアジア侵略の過程を安価な原料の輸入先の確保と市場拡大の視点からとらえて考え、表現している。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>三角貿易を手掛かりに、イギリスがインド・中国を支配していく過程をとらえるとともに、人々の抵抗運動のようすを理解している。</p>

## 第2節 近世から近代へ

第2節の目標
<p>○欧米諸国の接近や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことを理解する。</p> <p>○国内外の変化に対する幕府と諸藩の対応のちがいや幕府を批判する勢力の主張の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きを生み出したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p><b>【単元を貫く問い】</b></p> <p>なぜ約260年間続いた江戸幕府が倒れることになったのだろうか。</p>

(★評定に用いる評価) 第2節の評価規準	<b>知識・技能</b>	・欧米諸国の接近や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b>	・国内外の変化に対する幕府と諸藩の対応のちがいや幕府を批判する勢力の主張の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
61	158 159	1 ゆらぐ幕府の支配 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国船の接近</li> <li>・大塩の乱と天保の改革</li> <li>・藩政の改革と雄藩の成長</li> </ul>	○地図や年表の読み取りなどを通して、対外関係と国内のようすの変化について理解する。 ○社会の変化に対し、改革に失敗した幕府と成功した諸藩の対応のちがいを追究して、幕末の政治への影響について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 外国船の接近やききん、一揆に対応するための天保の改革が失敗した一方、薩長など西南雄藩が藩政改革を成功させたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 従来大きな力をもっていた幕府が国内外の課題の対応に失敗し、改革に成功した西南雄藩の影響力が高まったことを考え、表現している。
62	160 161	2 開国 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペリーの来航</li> <li>・不平等条約の締結</li> <li>・経済の混乱</li> </ul>	○ペリーの来航を機に、アメリカの要求を受け入れ、不平等条約を結んだ幕府の政策転換の経緯について理解する。 ○資料を活用しながら、開国後の物価高の理由について考察し、国内の混乱が日本に与えた影響を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 日米和親条約・日米修好通商条約の締結に関わったアメリカと幕府の人物の動きや、各条約の内容のちがいを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 金銀比価問題と関税自主権を喪失する中で貿易が始まり、物価高が生じて民衆の生活を圧迫したことを考え、表現している。
63	162 163	3 江戸幕府の滅亡 <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊王攘夷から倒幕へ</li> <li>・世直し</li> <li>・王政復古と戊辰戦争</li> </ul>	○開国後の混乱を背景に尊王攘夷論が発生し、幕府が攘夷を実行しようとする勢力を弾圧したのち、倒幕勢力が生まれてきたことを理解する。 ○大政奉還後、王政復古の大号令が宣言され、戊辰戦争が発生した経過について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 安政の大獄などで幕府が尊王攘夷運動を弾圧する一方、薩長は攘夷を執行し失敗したことを通じて、倒幕へ傾いていったことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 大政奉還後、新政府軍と旧幕府軍のあいだで戊辰戦争が発生し、勝利した新政府軍による新しい政治が始まった過程を考え、表現している。

一	164 165	【歴史を掘り下げる】 新しい世の中をめざした人々	○農作物に関する国訴や洗染一揆を通して、自由や平等を求めた動きが江戸時代後期にすでに民衆の中で発生していたことを理解する。 ○鎖国下でも海外に渡り、日本の今後のありかたについて検討した人々の取り組みが、幕末の激動や新政府の国家構想に反映されていることを考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 江戸時代の身分制のもと、経済的な自由や差別の撤回を求めた人々が存在したことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日本が植民地化される危険性を訴えた高杉の日記や、海援隊で議論されていた国家構想などの読み取りを通して、彼らの歴史的業績を考え、表現している。
---	------------	-----------------------------	---	--

### 第3節 近代国家へのあゆみ

第3節の目標	
<p>○富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。</p> <p>○幕藩体制とのちがいや諸政策の目的、諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 明治維新の諸政策によって社会はどのように変化したのだろうか。</p>	
(★) 第3節の評価規準に用いる評価	<b>知識・技能</b> ・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b> ・幕藩体制とのちがいや諸政策の目的、諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
64	166 167	1 明治維新 ・新政府の成立 ・廃藩置県 ・身分制の廃止と四民平等	○幕藩体制と比較し、新政府がめざした政治の方針の意図について、学習した諸政策をふまえて考え、表現する。 ○明治新政府が示した方針に基づいて、廃藩置県や四民平等などの様々な改革を行ったが、徹底され	<b>思考・判断・表現</b> 地方分権的な幕藩体制と比較し、明治新政府の諸政策が天皇を中心とした中央集権国家の建設をめざしたことを考え、表現している。 <b>知識・技能</b> 版籍奉還・廃藩置県・解放令による四民平等などの諸政策が行われたが、五榜の掲示や平等の不徹底が存在したことを理解している。

			ていない部分も存在したことを理解する。	
65	168 169	2 殖産興業と富国強兵 ・殖産興業 ・国民皆兵と徴兵令 ・地租改正	○官営模範工場建設などの殖産興業策や徴兵令，地租改正の内容とそれぞれの目的について理解する。 ○新政府が富国強兵策をすすめて近代国家建設を急いだ理由について，殖産興業・徴兵令・地租改正の内容をふまえて考え，表現する。	<b>知識・技能</b> 国内経済の活性化により国力をつけるための殖産興業，近代的な軍隊をつくるための徴兵令，政府の財政を安定させるための地租改正であったことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 政策の内容から，列強諸国に対抗し，植民地化を免れようとしたことを考え，表現している。
66	170 171	3 文明開化の展開 ・国民皆学と学制 ・国民をつくる ・さまざまな文明開化	○学制や文明開化にみられる生活の近代化について，現在の私たちの生活に伝わっているものを挙げながら理解する。 ○明治政府が文明開化をすすめた理由について，江戸時代の思想・教育と比較して考え，表現する。	<b>知識・技能</b> 学制の実際や文明開化の風潮について，停滞した時期等の存在もふまえたうえで理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 文明開化が，洋風の生活様式や教育等の受容にとどまらず，近代国家建設に不可欠な「国民」の創出をめざしていたことを，江戸時代とのちがいをふまえて考え，表現している。
67	174 175	【とらえよう！時代の転換】 学校の始まりから，近世から近代への転換を考えてみよう	○江戸時代と明治時代の教育機関や教育内容のちがいを比較しながら，明治政府が何の育成に主眼をおいて国づくりを進めていたかを考え，表現する。	<b>思考・判断・表現</b> 明治政府の教育の特色を近世の教育と比較しながら理解し，明治政府の国づくりの方向性について考え，時代の転換として表現している。
68	176 177	4 領土の画定と隣接地域 ・領土の画定 ・琉球から沖縄へ ・北海道とアイヌの人々	○当時の国際社会が条約をもとに成り立っていたことを理解する。 ○隣接地域との条約締結や領土の画定，琉球や蝦夷地の日本への編入の経緯について考え，表現する。	<b>知識・技能</b> 欧米諸国との不平等な関係も，隣接地域との関係も，条約をもとに成り立っていたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 隣接地域との条約締結や領土の画定，琉球や蝦夷地の日本への編入の経緯について考え，表現している。
—	178 179	【歴史を掘り下げる】 近代的な国際秩序への参加	○明治政府が，国際社会での日本の地位向上のため，万国公法にかなう制度改正，対外政策を行ったことを理解する。	<b>知識・技能</b> 明治政府が，万国公法にかなう制度改正や，対外政策を行い，国際社会での日本の地位向上をめざしたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b>

			○岩倉使節団派遣の目的とその成果や、その影響について考え、表現する。	岩倉使節団派遣の目的とその成果や、その影響について考え、表現している。
—	180	【先人に学ぶ】 近代社会に日本を見つめ直す—岡倉天心とフェノロサ—	○岡倉天心とフェノロサの活躍に関心を持ち、主体的に追究する態度を養う。 ○岡倉天心とフェノロサの取り組みが、その後の日本にあたえた影響について、根拠を明らかにしながら考え、表現する。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 岡倉天心とフェノロサの活躍に関心を持ち、主体的に追究しようとしている。 <b>思考・判断・表現</b> 岡倉天心とフェノロサの取り組みが、その後の日本にあたえた影響について、根拠を明らかにしながら考え、表現している。
—	181	【でかけよう！地域調べ】 近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる—群馬県富岡市—	○近代化遺産について知ることで、史跡の存在意義の大きさを知ったり、遺産を訪ねて調べたりすることで、これまでの学習内容と関連させられることに気づく。 ○富岡製糸場の世界文化遺産への登録から、日本の近代化が果たした世界的役割や意義の大きさを考え、表現する。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 富岡製糸場建設の地理的・歴史的要因と存在意義の大きさをふまえ、これまで学習してきた内容と関連させて考えようとしている。 <b>思考・判断・表現</b> 明治時代の生糸を中心とした殖産興業の展開をふまえて、富岡製糸場が近代化遺産・世界遺産・国宝に登録された意義を考え、表現している。

#### 第4節 立憲制国家の成立

第4節の目標	
<p>○自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。</p> <p>○国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日本における議会政治はどのように始まったのだろうか。</p>	
<p>(★ 第4節の 評価規 準に 用いる 評価)</p>	<p><b>知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。</li> </ul> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>

時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
69	182 183	1 士族の反乱と自由民権運動 ・続発する士族の反乱 ・国会開設の要求	○政府内で、留守政府側と岩倉使節団側が政策をめぐって対立したことを理解する。 ○不満を高めた士族が起こした反乱や、国会開設で政府の改革を迫ろうとする自由民権運動が起きた過程を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 不平士族の不満をそらすため征韓論を主張する陣営と、国内政治の優先を主張する陣営が激しく対立したことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 士族の反乱や自由民権運動が起こった経緯について、政府を離れた西郷隆盛と板垣退助の動きに着目して考え、表現している。
70	184 185	2 憲法をめぐる対立と運動の激化 ・憲法をめぐる対立と国会開設の公約 ・政党の結成と運動の激化	○憲法がつくられるまでの間、民意を政治にどう反映させるかをめぐり、どのような運動が起こったのかを理解する。 ○自由民権運動がどのように展開されたのかについて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 国会開設までの過程における政府と、それに対抗する自由民権運動の動きについて理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 自由民権運動の展開について、私擬憲法の作成や政党の結成、激化する急進派の動きなどを、政府との対立を軸に考え、表現している。
71	186 187	3 内閣制度と大日本帝国憲法 ・内閣制度の成立 ・大日本帝国憲法と教育勅語	○大日本帝国憲法の制定の過程と内容を理解する。 ○帝国議会や地方制度の整備も進められ、近代国家としての形が整えられていった過程を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> ヨーロッパの憲法に学んで制定された大日本帝国憲法と、自由民権運動がめざす憲法を比較して、大日本帝国憲法の内容を理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 明治政府がどのような国づくりをめざしたのかを、内閣制度、憲法、教育勅語、地方制度などの内容から考え、表現している。
72	188 189	4 帝国議会と条約改正 ・帝国議会の開設と総選挙 ・藩閥政府と民党との対立 ・法律の整備 ・条約改正の実現	○帝国議会のしくみと選挙権について調べるとともに、政府と議会との対立を理解する。 ○幕末から続く外交課題である不平等条約の改正の過程を、国際情勢の変化をふまえて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 帝国議会のしくみと選挙権、政府と議会との対立について理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 近代国家としての制度の整備が、条約改正とどのように結びついたか考え、表現している。



## 第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

第5節の目標	
<p>○日清・日露戦争，条約改正などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，戦争のあらましと国内外の反応，韓国の植民地化や日本の国際的な地位が向上したことを理解する。</p> <p>○日清・日露戦争が起こった背景や結果，国内外の反応，条約改正が達成された過程などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日清・日露戦争，条約改正は日本にどのような影響をあたえたのだろうか。</p>	
(★) 第5節の評価規準 評価に用いる評価	<p><b>知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日清・日露戦争などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，戦争に至るまでの日本の動き，戦争のあらましと国内外の反応，韓国の植民地化が行われたことを理解している。</li> <li>条約改正などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，長年の外交上の課題として取り組まれた欧米諸国との対等な外交関係の樹立が達成されたことを理解している。</li> </ul>
	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日清・日露戦争が起こった背景や結果，国内外の反応，条約改正が達成された過程などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し，表現している。</li> </ul>

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
73	190 191	1 朝鮮をめぐる日本と清の対立 ・アジアとアフリカの植民地化 ・日清戦争 ・下関条約と三国干渉	○帝国主義のようすとその目的をつかみ，わずか150年ほど前の世界では，列強が植民地の獲得をめざして侵略を重ねていたことを理解する。 ○日清戦争について多面的・多角的に考え，表現する。	<p><b>知識・技能</b></p> <p>帝国主義諸国がアジアやアフリカを植民地化した目的と支配の状況を理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>日清戦争の原因と結果について，日本，清，朝鮮，ロシアそれぞれの立場にたって考え，表現している。</p>
74	192 193	2 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立 ・満州をめぐる日本とロシアの対立 ・日露戦争 ・ポーツマス条約と満州経営	○日本がロシアとの戦争にふみ切った理由を理解する。 ○日露戦争の戦いのようすやポーツマス条約の内容，それに対する国民の反応について考え，表現する。	<p><b>知識・技能</b></p> <p>開戦理由について，日本における朝鮮の重要性，南下政策をすすめるロシアと，それをおさえたいイギリスのねらいをふまえて理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>日露戦争が日清戦争よりも大規模な戦争であったことや，賠償金が取れず，それに国民が不満を抱いたことなどを考え，表現している。</p>
75	194 195	3 日本の朝鮮支配と中国の近代化 ・韓国併合 ・中華民国の成立	○日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の結果を理解する。	<p><b>知識・技能</b></p> <p>日露戦争後，日本が韓国を併合して植民地とする一方，中国では近代化をめざす辛亥革命が起き，中華民</p>

		○日本の朝鮮支配と中国の近代化を通して、日露戦争後の東アジアの状況を考え、表現する。	国が成立したことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日露戦争後の東アジアの状況について、日本による韓国併合と、中国で起こった辛亥革命の結果をふまえて考え、表現している。
--	--	--	---

## 第6節 近代日本の社会と文化

第6節の目標	
<p>○日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。</p> <p>○産業の発展が国民の生活や文化にあたえた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○近代（前半）の日本の学習をふり振り返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p><b>【単元を貫く問い】</b> 産業の発展によって社会や文化はどのように変わったのだろうか。</p>	
(★) 第6節の評価規準に用いる評価	<p><b>知識・技能</b></p> <p>・日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。</p>
	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>・産業の発展が国民の生活や文化にあたえた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>・近代（前半）の日本の学習をふり振り返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</p>

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
76	196 197	1 資本主義の発展と社会問題 ・工業化の進展 ・労働者と農民	○国家の強力なてこ入れのもと、日本は工業化や産業革命が実現したが、その過程で社会問題が発生したことを理解する。 ○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 日本で産業革命が進展する一方、厳しい条件下での労働や公害、貧富の格差など、新しい社会問題が生まれたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日本で産業革命が進展するにつれて、工業の発展や鉄道網の広がりなどによって人々の生活に変化がみられたことを考え、表現している。
77	198 199	2 社会運動の発展と近代文化の形成	○資本主義の発展は様々な影響をあたえ、	<b>思考・判断・表現</b> 社会運動の登場や近代文化の発展

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会を変える</li> <li>・新時代の文化芸術</li> <li>・教育の普及</li> </ul>	<p>労働運動や貧困と抑圧から解放を求める思想が登場したことを考え、表現する。</p> <p>○近代思想、文化、芸術が形成され、その背景には教育の普及があることを理解する。</p>	<p>を、日本の資本主義の発展と結びつけて考え、表現している。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>欧米文化を日本の伝統と融合させながら日本の近代文化が形成されたことをとらえ、その背景に教育の普及があったことを理解している。</p>
—	200	<p><b>【先人に学ぶ】</b> エルトゥールル号遭難事件—日本とトルコの1世紀の年月をこえた国際協力—</p>	<p>○エルトゥールル号遭難事件に関心を持ち、日本とトルコの国際協力について、理解する。</p>	<p><b>知識・技能</b></p> <p>エルトゥールル号が遭難したときの紀伊大島の人々の対応が、100年後の国際協力につながったことを理解している。</p>
—	201	<p><b>【歴史を掘り下げる】</b> 山本作兵衛の炭坑記録画（ユネスコ記憶遺産）—近代の産業を支えた人々の記録—</p>	<p>○ユネスコ記憶遺産になった炭坑記録画をきっかけに、近代の産業を支えた人々について主体的に考える態度を養う。</p>	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>山本作兵衛の炭坑記録画をきっかけに、近代産業を支えた人々について主体的に追究しようとしている。</p>
78	202 203	<p><b>【学習の活用—とらえよう！「日本の近代化」の特色】</b> 明治政府の「政策」から、時代の特色にせまろう</p>	<p>○明治政府が進めた政策に着目し、近代（前半）の特色を多面的・多角的に考え、表現する。</p> <p>○「政策」に着目し、諸政策を分類・整理する活動を通して、これまでの学習を振り返りながら、近代（前半）の時代の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>明治政府が進めた政策を分類、整理する活動を通して、明治政府が進めた政策に着目し、近代（前半）の特色を多面的・多角的に考え、表現している。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>これまでの学習活動をふまえ、近代（前半）の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。</p>

## 第5編 近代の日本と世界

### 第2章 二度の世界大戦と日本

#### 第5編第2章の目標

- 近代（後半）までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 近代（後半）での日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 近代（後半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

#### 【単元を貫く問い】

「近代（後半）」は、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何だろうか。また、どのような特色をもった時代だろうか。

第5編第2章の評価規準 (★評定に用いる評価)	<b>知識・技能</b> ・近代(後半)までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。
	<b>思考・判断・表現</b> ・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代(後半)の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代(後半)の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近代(後半)の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代(後半)の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

## 第1節 第一次世界大戦と戦後の世界

第1節の目標	
○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢について理解する。 ○経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代(後半)の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。	
<b>【単元を貫く問い】</b> 第一次世界大戦前後の国際情勢に対して日本はどのように動いたのだろうか。	
第1節の評価規準 (★評定に用いる評価)	<b>知識・技能</b> ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて理解している。
	<b>思考・判断・表現</b> ・経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代(後半)の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
79	204～207	<b>【導入】</b> ・「二度の世界大戦と日本」の特色を探っていく ・地図で見る世界の動き－第一次世界大戦の国際関係	○生活の変化を示す写真の読み取りを通して、当時の日本のようすをイメージし、二度の世界大戦とその影響について主体的に考える態度を養	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 近代(後半)の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。 <b>知識・技能</b> 地図と年表から当時の世界情勢に

			う。 ○大正から昭和にかけての日本と世界の流れや、世界の国々の対立や動きについて理解する。	ついてまとめ、世界の国々の対立関係や二度の大戦に発展した日本や世界の動きを理解している。
--	--	--	--	--

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
80	208 209	1 第一次世界大戦 ・初めての世界大戦 ・長引く戦争と総力戦 ・ロシア革命	○第一次世界大戦が起きた背景や原因、ヨーロッパにあてた影響を理解する。 ○第一次世界大戦の特徴を、ロシア革命の動きと関連づけて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 当時のヨーロッパ情勢についてまとめ、第一次世界大戦が起きた背景や原因、戦争があてた影響について理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 第一次世界大戦が総力戦になったことと、その後のロシア革命の動きとを関連づけて考え、表現している。
81	210 211	2 日本の参戦と大戦景気 ・日本の参戦と二十一か条の要求 ・日本経済の飛躍 ・シベリア出兵と米騒動	○第一次世界大戦に参戦した日本で経済が好景気をむかえたり、米騒動が起こったりしたことを理解する。 ○二十一か条の要求やシベリア出兵の意図をとらえて、第一次世界大戦が日本にあてた影響を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 第一次世界大戦の参戦により日本経済が好景気になったことや、シベリア出兵により米騒動が起こったことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 二十一か条の要求やシベリア出兵などのアジアへの勢力拡大をねらった動きが日本の対外政策にどのような影響をあてたのか考え、表現している。
82	212 213	3 大戦後の世界とアジアの民族運動 ・ベルサイユ条約と国際連盟 ・アジアの民族運動 ・ワシントン会議と日本	○第一次世界大戦後に、国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解する。 ○アジアの民族運動や独立運動の流れを、第一次世界大戦と関連づけて考え、表現する。	<b>知識・技能</b> ベルサイユ条約の内容や国際連盟についてまとめ、国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> インドや中国、朝鮮の民族運動を第一次世界大戦後の民族自決の動きと関連づけて考え、表現している。

## 第2節 大正デモクラシーの時代

第2節の目標
○国際協調の動きや日本の国民の政治的自覚の高まり、文化の大衆化などを基に、諸資料から歴史に關する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことを理解する。 ○政党政治の展開や普通選挙制の実現、社会運動の広まり、都市化の進展と大衆文化の内容などに着目



一	220 221	【歴史を掘り下げる】 よみがえった東京駅ー近代化産業遺産を訪ねるー	○近代化産業遺産を見たり、調べたりすることを通して、先人がどのように日本の近代化のために努力したのかを考え、表現する。 ○近代化産業遺産の保存などを通して、日本の文化遺産に関する関心を高めるとともに、文化遺産の大切さを理解する。	<b>思考・判断・表現</b> どのような近代化産業遺産が、なぜ選定されているのかを考えることを通して、日本の近代化の道筋をあらためて考えている。 <b>知識・技能</b> 著名な近代化産業遺産について理解するとともに、身近な地域にある近代化産業遺産についても知っている。
---	------------	--------------------------------------	---	---

### 第3節 世界恐慌と中国との戦争

第3節の目標	
○経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解する。 ○経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。	
【単元を貫く問い】 なぜ日本は長い戦争の時代をむかえることになったのだろうか。	
★ 第3節の 評価 規 準 ( 用 い る 評 価 )	<b>知識・技能</b> ・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。
	<b>思考・判断・表現</b> ・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し、表現している。

時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
86	222 223	1 世界恐慌と各国の対応 ・世界恐慌の衝撃 ・ファシズムの台頭 ・ニューディール政策とブ ロック経済政策	○世界恐慌が起きた時のソ連とその他の国との経済のしくみのちがいを理解する。 ○資源・植民地をもてる国と、もたざる国とのちがいをとらえ、世界恐慌が欧米諸国にあたえた影響を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 社会主義と資本主義の経済のしくみのちがいをふまえ、世界恐慌による各国の社会の変化を理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 資源・植民地をもてる国と、もたざる国とのちがいに着目して、世界恐慌が欧米諸国にあたえた影響を考え、表現している。
87	224 225	2 日本の恐慌と東アジア情勢 ・日本の恐慌 ・統一を進める中国と日本	○欧米でも起こったことを参考に、日本の都市や農村で起こったことをとらえ、世	<b>思考・判断・表現</b> 欧米でも起こったことを参考に、日本の都市や農村で起こったことに着目し、経済が落ち込んだ日本で

		の対応 ・政党政治の危機	界恐慌が日本にあてた影響を考え、表現する。 ○日本への世界恐慌の影響に関する欧米諸国との共通点、相違点を理解する。	は、社会運動が多発したことについて考え、表現している。 <b>知識・技能</b> 世界恐慌の影響を受けて経済の混乱が起こる中、日本の政党政治がゆきづまりをみせたことを理解している。
88	226 227	3 日本の進路を変えた満州事変 ・満州事変 ・強まる軍部の力	○満州事変後に軍部の発言力が強まり、国内政治は政党政治・軍縮路線から軍拡路線へと進路を変えたことを理解する。 ○日本国内の社会や政治の移り変わりをとらえ、満州への侵略が行われた理由と、満州事変後の日本の政治の変化を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 満州事変後に軍部の発言力が強まり、国内政治は政党政治・軍縮路線から、軍拡路線へと進路を変えたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日本国内の社会や政治の移り変わりに着目して、満州への侵略が行われた理由と、満州事変後の日本の政治の変化を考え、表現している。
89	228 229	4 日中全面戦争と戦時体制 ・中国との全面戦争 ・強まる戦時体制	○日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きをとらえ、日本と中国の軍事的衝突が長期化した理由を考え、表現する。 ○日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では軍国主義の体制が推進されたことを理解する。	<b>思考・判断・表現</b> 日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きに着目して、日本と中国の軍事的衝突が長期化した理由を考え、表現している。 <b>知識・技能</b> 日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では国家総動員法などに基づいて軍国主義の体制が推進されたことを理解している。

#### 第4節 第二次世界大戦と日本

第4節の目標
<p>○第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。</p> <p>○第二次世界大戦期の世界と日本の動きなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦終結までのようすについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○近代（後半）の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（後半）の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p><b>【単元を貫く問い】</b>            第二次世界大戦が世界にもたらしたものは何だろうか。</p>



(★評定に用いる評価)	<b>知識・技能</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることを理解している。</li> </ul>
	<b>思考・判断・表現</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦時の世界の動きと日本との関連に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>近代（後半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代（後半）の日本の学習をふり振り返りながら自身の学びを確認、調整しようとするともに、近代（後半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
90	230 231	1 第二次世界大戦の始まり <ul style="list-style-type: none"> <li>再び起きた世界大戦</li> <li>ドイツの占領政策</li> <li>枢軸国と連合国</li> </ul>	○第二次世界大戦の始まりと経過を理解する。 ○枢軸国、連合国の方針のちがいに着目して、日本が枢軸国側に参加した理由について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 当時の国際社会の対立をファシズム・反ファシズムの立場からとらえ、第二次世界大戦の始まりと経過を理解している。 <b>思考・判断・表現</b> なぜ日本が枢軸国側に参加したのかを、連合国・枢軸国それぞれの立場をふまえて考え、表現している。
91	232 233	2 アジア・太平洋での戦争 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の南進</li> <li>日米交渉の経緯</li> <li>太平洋戦争の始まり</li> </ul>	○当時の日本の状況をふまえて、日本が東南アジア諸国へ侵攻した理由を理解する。 ○日本政府や日本軍それぞれの動きに着目して、アメリカとの戦争に至った経緯や理由を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 当時の日本資源の分布などを読み取り、日本が東南アジア諸国へ侵攻した経緯や理由を理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日本政府の交渉と日本軍の侵攻の動きに着目して、なぜアメリカとの戦争を始めたのかを考え、表現している。
92	234 235	3 戦時下の国民の生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>苦しくなった国民生活</li> <li>本土空襲</li> <li>戦場となった沖縄</li> </ul>	○日本の戦局の悪化に伴い、国民がどのように戦争に組み込まれたかを理解する。 ○様々な資料から、戦争が国内だけでなく、占領地や植民地の人々の生活にも大きな影響を及ぼしたことを考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 日本の戦局の悪化に伴い、物資の不足と兵力・労働力不足を補うために国民が動員されたことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 戦時下の生活の実態や変化を国内や占領地、植民地などに着目して多面的・多角的に考え、表現している。

93	236 237	4 平和へのあゆみと戦争の傷あと ・イタリアとドイツの降伏 ・ヒロシマとナガサキ ・日本の降伏	○資料から第二次世界大戦末終結までの過程を読み取り、日本の降伏までの流れを理解する。 ○人類全体へ大きな惨禍をもたらした戦争という過ちを二度と起こさないためにどのようなことが大切かを考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 各種資料を読み取り、関連づけながらまとめ、イタリア・ドイツの降伏からポツダム宣言受諾までの終結の過程を理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 第二次世界大戦が人類に及ぼした惨禍を学び、同じ過ちを防ぐためにどのようなことが大切か、今後の国際協調について考え、表現している。
—	238	<b>【先人に学ぶ】</b> 新渡戸稲造と杉原千畝	○二度の世界大戦期に国際平和などの実現に努めた先人の姿に関心をもち、主体的に追究する態度を養う。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 新渡戸稲造や杉原千畝の行ったことに関心をもち、新渡戸稲造や杉原千畝の事績を知り、二度の世界大戦期に生きた日本人を多面的・多角的にとらえようとしている。
—	239	<b>【歴史を掘り下げる】</b> 日本人の海外移民	○日本人の海外移民の始まりと経過を理解するとともに、なぜ移民する必要があったのかを考え、表現する。	<b>思考・判断・表現</b> なぜ、日本人が海外移民したのか、政府のねらいと海外移民の目的の両面から考え、表現している。
—	240 241	<b>【でかけよう！地域調べ】</b> 戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる—大阪府大阪市—	○戦争遺跡や博物館、インターネットなどを効果的に活用し、戦争の被害や人々にあたえた影響について読み取る。 ○地域の戦争遺跡を調べることを通して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的にとらえて国際平和の意義を考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 戦争遺跡や博物館、インターネットなどを活用し、戦争の被害や人々にあたえた影響について読み取っている。 <b>思考・判断・表現</b> 空襲の体験談や遺跡・博物館の資料などから、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的にとらえ、戦争の悲惨さを理解したうえで、国際平和の意義について考え、表現している。
94	242 243	<b>【学習の活用—とらえよう！「二度の世界大戦と日本」の特色】</b> 「戦争」に着目して、時代の特色にせまろう	○日本で戦争が続いた理由に着目し、近代（後半）の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○「戦争」に着目し、戦争の背景と影響を考察する活動を通して、これまでの学習をふり振り返りながら、近代（後半）の特色について主体的に追究しようとする態度	<b>思考・判断・表現</b> 満州事変から敗戦までの戦争について整理する活動を通じて、日本で戦争が続いた理由に着目し、近代（後半）の特色を多面的・多角的に考え、表現している。 <b>主体的に学習に取り組む態度</b> これまでの学習活動をふまえ、近代（後半）の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

			を養う。	
--	--	--	------	--

## 第6編 現代の日本と世界

第6編の目標	
	<p>○現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○現代の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○現代の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 「現代」は、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何だろうか。また、どのような特色をもった時代だろうか。</p>
<p>★ 第6編の評価規準 に 用 い る 評 価</p>	<p><b>知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。</li> </ul> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敗戦前後の社会の変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>現代の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、現代の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

## 第1節 平和と民主化への動き

第1節の目標
<p>○冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。</p> <p>○敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 敗戦によって日本の社会はどのように変化し、どのように国際社会へ復帰したのだろうか。</p>

(★ 第1節の評価規準 に用いる評価)	<b>知識・技能</b> ・冷戦，日本の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。
	<b>思考・判断・表現</b> ・敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ・資料から戦争中や敗戦直後，現在のようすを比較することを通して，現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
95	244 ～ 247	<b>【導入】</b> ・「現代の日本と世界」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動きー第二次世界大戦後の世界	○戦争中や敗戦直後と現在のようすの読み取りを通して，敗戦から現在に至るまでの日本や世界の歩みについて主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して，第二次世界大戦後から現在にかけての日本を取り巻く国際環境の変化や，日本と世界の動きについて理解する。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 現代の日本と世界について，見通しをもって学習に取り組もうとし，課題を主体的に追究しようとしている。 <b>知識・技能</b> 地図や年表から第二次世界大戦終結による国際環境の変化や現在に至るまでの日本と世界の動きについて理解している。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
96	248 249	1 第二次世界大戦後の世界と日本 ・国際連合と植民地の解放 ・日本の占領と非軍事化・民主化 ・民主化をめざす国民の運動	○第二次世界大戦後の国際社会の動きと結びつけて，日本の戦後の民主化と国民運動の特色について考え，表現する。 ○日本の戦後の民主化の動きを第二次世界大戦前のできごとと関連づけて理解する。	<b>思考・判断・表現</b> 前の時代の政治制度や経済のしくみと比較したり，総合したりして，第二次世界大戦後の日本の諸改革の特色を自分の言葉で表現している。 <b>知識・技能</b> 第二次世界大戦後の日本の諸改革の特色が「民主化」であり，現在につながっていることを理解している。
97	250 251	2 平和国家をめざして ・日本国憲法の成立 ・民主化の進展	○日本国憲法を大日本帝国憲法と比較しながら読み取り，日本国憲法の特色を理解する。 ○日本国憲法と戦後の	<b>知識・技能</b> 日本国憲法と大日本帝国憲法の比較から，三つの基本原則を明確にした日本国憲法の特色を理解している。 <b>思考・判断・表現</b>

			改革から、日本がどのような国づくりをめざしていたかについて考え、表現する。	日本国憲法や戦後改革によってめざされた国づくりについて、敗戦前の社会とのちがいに着目して考え、表現している。
98	252 253	3 占領下の日本と国民の生活 ・戦後の生活と国民の苦難 ・生産の再開と経済の復興	○当時の国民の生活のようすを日中戦争から太平洋戦争まで続く戦争と関連づけながら考え、表現する。 ○当時の生活を戦争と関連づけながら、復興に向けた動きを理解する。	<b>思考・判断・表現</b> 当時の国民の生活のようすを戦争と関連づけながら、多面的・多角的に考え、表現している。 <b>知識・技能</b> 日中戦争から太平洋戦争まで続いた戦争が国民生活と日本経済にあたえた影響と、復興に向けた努力を理解している。
99	254 255	【とらえよう！時代の転換】 戦後の教育制度の改革から、近代から現代への転換を考えてみよう	○戦後の教育制度改革の特色とその背景を理解し、教育制度改革を通して個人の人権が尊重される民主的な社会がめざされたことを表現する。	<b>思考・判断・表現</b> 戦後の教育内容の特色をふまえ、日本が個人の人権を尊重し、国民の社会参加を重視する国づくりを進めていたことを表現している。
100	256 257	4 冷たい戦争と世界の動き ・対立するアメリカとソ連 ・新しい中国と朝鮮戦争 ・平和をめざすアジア・アフリカ	○冷戦が世界にあたえた影響について、資本主義陣営と社会主義陣営が対立を深めていく過程に着目して多面的・多角的に考え、表現する。 ○資料の読み取りなどを通して、核実験による緊張の高まりと緩和への動きの高まりについて理解する。	<b>思考・判断・表現</b> 冷戦が世界にあたえた影響について、東西ドイツの成立や朝鮮戦争が起こった過程に着目して多面的・多角的に考え、その結果を表現している。 <b>知識・技能</b> 冷戦下の緊張が高まる中で、核実験の被害や核戦争の危機が起きたが、緊張緩和への動きも高まったことを理解している。
101	258 259	5 国際社会への復帰 ・占領政策の変化 ・主権と国交の回復 ・国際機関への参加	○復帰にかかわる条約が、今日まで影響をあたえていることを理解する。 ○日本の国際社会への復帰について、冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 日本の国際復帰にかかわる条約を理解しているとともに、それらの条約が今日にも影響をあたえていることを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 日本の国際社会への復帰について、深刻化した冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現している。

## 第2節 国際化する世界と日本

第2節の目標	
<p>○高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。</p> <p>○高度経済成長期前後の生活のちがひ，日本と諸外国との関係，国際社会と現在の私たちの生活との深いつながりなどに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>○現代の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，現代の時代の特徴は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 これからの日本が解決を求められる課題とは何だろうか。</p>	
(★) 第2節の評価規準 に用いる評価	<p><b>知識・技能</b></p> <p>・高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。</p>
	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>・高度経済成長期前後の生活のちがひ，日本と諸外国との関係，国際社会と現在の私たちの生活との深いつながりなどに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。</p>
	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>・現代の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，現代の時代の特徴は何かを主体的に追究しようとしている。</p>

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
102	260 261	1 高度経済成長 ・経済の高度成長 ・高度成長期の暮らし ・高度成長のひずみと環境問題	<p>○高度経済成長期による人々のくらしの変化について多面的・多角的に考え，表現する。</p> <p>○急速な高度経済成長によって国民生活が豊かになったいっぽうで，過疎や過密，ごみ問題，公害問題などが社会問題となり，深刻になったことを理解する。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>人々のくらしの変化について，高度経済成長期の前後のちがひに着目して考え，表現している。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>日本の技術革新による高度経済成長のようすや，そのひずみとしての公害問題の発生について，統一的に理解している。</p>
103	264 265	2 日本をとりまく国際関係 ・新しい安保条約と55年体制 ・日韓基本条約 ・返還運動の高まりと沖縄返還 ・中国との国交正常化	<p>○日本が課題を乗り越えて，同じ資本主義国とのつながりを強めていく過程を理解する。</p> <p>○日本とアジア諸国との関係の変化について，アメリカの影響をふまえて考えると</p>	<p><b>知識・技能</b></p> <p>1960年代から70年代にかけての冷戦のもとでの日本の外交の歴史を知り，その流れを理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>冷戦下で日本が韓国・中国との国交正常化を実現した背景を，アメリカとの関係に着目して考えるとともに，韓国・中国との現在の領土をめ</p>

			ともに、韓国・中国との今日的課題について考え、表現する。	ぐる課題について、歴史的な経緯や原因に着目し、解決に向けてどのようなことが求められるか考え、表現している。
104	266 267	3 多極化する世界と日本 ・冷戦の終結とその後の世界 ・躍進するアジアと日本 ・続く紛争と地域統合の新しい動き	○冷戦終結後、紛争が無くならないいっぽうで、新しい国際秩序の構築が図られていることについて考え、表現する。 ○資料から冷戦の終結など、国際社会の変化のあらましを理解する。	<b>知識・技能</b> 年表や新聞などの資料を活用して、冷戦終結の過程や現在の世界の問題をとらえようとしている。 <b>思考・判断・表現</b> 1960年代以降の世界情勢をふまえて、世界の各国のつながりのあり方について考えている。
105	268 269	4 先進国日本の課題 ・経済大国となった日本 ・55年体制の終わり ・災害にみまわれた日本	○日本の石油危機後の経済成長の推移をつかみ、日本が経済や社会の構造改革の必要に迫られ大きく変化したことを理解する。 ○高度経済成長後の日本の政治的・経済的・社会的な課題をつかみ、その解決について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 日本の経済成長の推移から、経済・政治や社会が大きく変化したことを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 高度経済成長後の日本の政治的・経済的・社会的な課題やその解決について考え、表現している。
106	270 271	5 21世紀と日本の役割 ・国際社会と日本の役割 ・解決をせまられる国内課題	○国際社会における日本の役割と日本への期待が大きくなっていくことを理解する。 ○現在の国内問題を認識し、その解決について考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 経済大国としての日本の立場を理解し、それにふさわしい行動を日本が求められていることを理解している。 <b>思考・判断・表現</b> 国際社会における課題や日本国内の課題をとらえ、解決に向けてどのようなことができるか考え、表現している。
—	272 273	【歴史を掘り下げる】 アイヌと沖縄の近代と現代	○アイヌ民族や沖縄の人々と他地域に住む人々との歴史のちがいについて考え、表現する。 ○アイヌ民族や沖縄の人々のきびしい歴史的背景から、この地域に住む人々の思いや願いについて理解する。	<b>思考・判断・表現</b> アイヌ民族や沖縄の人々の思いや願いを、過去の歴史的背景から考え、表現している。 <b>知識・技能</b> アイヌ民族や沖縄の人々がきびしい歴史に立ち向かい、力強く生きてきた姿を理解している。

—	274 275	【先人に学ぶ】 災害の歴史に学び、私たちの未来に活かす	○災害の歴史から、災害への備えについて考え、表現する。 ○災害に対する先人の取り組みを振り返る活動を通じて、防災のための課題を主体的に追究、解決する力を養う。	<b>思考・判断・表現</b> 防災・減災の取り組みについて学んだことをもとに、多面的・多角的な視点で未来に活かすために自分たちができることを考え、表現している。 <b>主体的に学習に取り組む態度</b> 災害の歴史や防災への取り組みについてまとめ、防災のための課題について、主体的に追究、解決しようとしている。
—	276 277	【でかけよう！地域調べ】 地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる—福岡県北九州市—	○公害克服の歴史やそれを生かした取り組みについて、資料を活用しながらまとめる。 ○北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みについて、多面的・多角的に考え、表現する。	<b>知識・技能</b> 公害克服の歴史やそれを生かした国際的な取り組みについて、資料を活用しながらまとめている。 <b>思考・判断・表現</b> 北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みの良さについて、考え、表現している。
107	278 279	【学習の活用—とらえよう！「現代の日本と世界」の特色】 「復興と成長の源」に着目して、時代の特色にせまろう	○現代の日本が直面した問題とその克服のようすを考察し、現代の特色について考え、表現する。 ○「復興と成長の源」に着目し、現在までに克服したことや、未解決の課題をまとめる活動を通して、これまでの学習を振り返りながら、現代の時代の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	<b>思考・判断・表現</b> 戦後復興と経済成長の中で、日本が直面した問題とその克服のようすを多面的・多角的に考察し、現代の特色について考え、表現している。 <b>主体的に学習に取り組む態度</b> これまでの学習活動をふまえ、現代の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価規準
108	280	歴史を学んで	○歴史の学習で得られた知識や考え方を生かしながら、私たち一人ひとりが歴史をつくっていく主人公なのだという自覚と意欲を育む。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 中学校の歴史学習を振り返って、21世紀の歴史をつくっていく主人公としての自覚をもち、身につけた知識や思考法を活かしながら、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。